

令和2年度
学校関係者評価報告書

令和3年5月
昭和大学医学部附属看護専門学校

I 重点事業について

1 重点目標 (1) について

① 取組課題

- ・ 専門教育の充実

【事業計画】

教育内容の促進に向け、今年度は令和4年度カリキュラム変更を踏まえ、新たな科目として、より附属病院及び地域在宅の特徴を活かし、急性期、回復期などあらゆる時期に対応できる専門教育の充実を図ります。

【計画の達成度】

教育内容の促進に向け、2022年度カリキュラム変更を踏まえ、新たな科目として、地域・在宅看護論、医療安全、領域横断型の演習などを組み込みました。また、臨地実習の評価表を改定し、より附属病院及び地域在宅の特徴を活かし、急性期、回復期などあらゆる時期に対応できる専門教育の充実を図りました。ナースングスキルを導入し、確実な技術習得と臨床現場に近い設備・環境の確保のために臨床現場のスタッフや学部の教育推進室と協力し、教育環境の更なる充実を図りました。コロナ禍ではありましたが実習目標が70%以上達成できました。学内実習や課題学習、ナースングスキル等を活用が、目標達成につながりました。医学部合同のPBP教育が実施でき、学生の意識向上にもつながりました。

② 取組課題

- ・ カリキュラムの改革

【事業計画】

臨地実習のコース・ユニット制の導入を見据えて、各領域の教育目標を見直し、評価方法の検討など体制を整備します。また、総合学習・総合試験を今年度から廃止し、卒業試験と形を変えて導入致します。

【計画の達成度】

臨地実習のコース・ユニット制の導入を見据えて、各領域の教育目標を見直し、評価方法の検討など体制の整備を図りました。また、総合学習・総合試験を廃止し、卒業試験と形を変更し運営致しました。

臨地実習の評価表を変更したことで、成果が明らかになりました。また、各領域そろえたことでコース・ユニット制の考えが定着したと考えます。コロナ禍であったことで一つの実習だけではなく、全体として考えていくことにつながりました。

③ 取組課題

- ・キャリア支援の強化

【事業計画】

学生が自己の能力や適性、志望に応じて卒後の進路を主体的に選択し、社会的、職業的な自立を図るために必要な能力を培うために、今年度から支援体制を計画的に実施します。

ガイダンスの実施、就職に関する情報の収集・提供等を通じて支援体制の構築に努めます。

【計画の達成度】

学生が自己の能力や適性、志望に応じて卒後の進路を主体的に選択し、社会的、職業的な自立を図るために必要な能力を培うために、支援体制を計画的に実施致しました。

また、ガイダンスの実施、就職に関する情報の収集・提供等を通じて支援体制の構築に努めました。

看護キャリア支援室が主導となり、3学年の各キャリア支援年間計画を立案し、実施することができました。学生個々からの相談等も増加し支援体制の構築ができました。特にキャリアの意識付けには効果があり、学生個々が就職や進学など考えることのきっかけとなっているため、今後もさらに強化致します。

④ 取組課題

- ・教育理念・コンピテンシーの見直しとカリキュラム改革

【事業計画】

教育理念・コンピテンシーを見直し、学生へ周知し、学生の確保ならびに質の高い看護師育成のための新カリキュラムで教育目標達成に努めます。また、臨地実習記録やレポートのIT化を進め、ポートフォリオを活用した学習と評価の導入を検討していきます。

【計画の達成度】

教育理念・コンピテンシーを改定し、学生への周知を行い、質の高い看護師育成のための新カリキュラムで教育目標達成に努めました。また、臨地実習記録やレポート等のIT化を進め、ポートフォリオを活用した学習と評価の導入の検討を行いました。

ディプロマポリシー・カリキュラムポリシーを作成し、新カリキュラムへ向けての準備を整えました。また、コロナ禍であり対面授業を制限したため、IT化による授業が促進できました。

⑤ 取組課題

- ・ 自己点検・評価活動の推進

【事業計画】

内部質保証による教育・研究活動の充実に繋げるための自己点検・自己評価を引き続き実施します。また、外部委員からの客観的な意見を活用し、さらなる質保証に努めます。

【計画の達成度】

内部質保証による教育・研究活動の充実に繋げるための自己点検・自己評価を実施致しました。

また、外部委員からの客観的な意見を活用し、さらなる質保証に努めます。

中間評価、最終評価と定期的実施することで、学校内の課題が見え、改善につなげることができました。

⑥ 取組課題

- ・ 教職員の育成

【事業計画】

教員のキャリア支援・研究の推進を図るために、学習会、外部研修、学会参加を充実させ、お互いが向上心を持って教育活動できるよう環境に整備します。

【計画の達成度】

教員のキャリア支援・研究の推進をはかるために、学習会、外部研修、学会参加を充実させ、お互いが向上心を持って教育活動ができるよう整備し推進致しました。

II. 領域別評価について

1 学校経営

学校法人昭和大学の財政支援の基に財政基盤は安定しており、学生に必要なかつ快適な教育環境を提供できる財務体質を備えている。予算管理については法人本部から妥当性について毎年ヒアリングを受け年間予算を決定している。予算執行についてもヒアリングを受け客観的な検証を行っている。

また、昭和大学医学部附属看護専門学校評価規程を定め、学校のビジョンおよびそれを実現するための組織目標を策定し、中間評価を実施し、後期に活かしている。また学校組織図、会議組織図を見直し会議運営の見直しを図っており、学校経営は組織的に行われている。しかし全教員への周知がなされていないという報告があり、今後は、中間評価や最終評価の報告会を企画し経営に当たって欲しい。

引き続き、学校経営をしていく上で教員が十分承知しておくことが大切と考えられるので、周知方法の工夫がもっとあったらよい。

更に、安定した学校経営を継続するため、入学定員の確保、退学者の防止に努めることが課題である。

2 教育課程・教育活動

シラバスの見直しを行いながら、教育目標を確認している。教育目標がシラバスに記載されており、学生、教員ともに確認することができている。

ワークショップ等で、社会の現状にあった教育ができるよう努力されている。

次年度に向けてカリキュラムポリシーを設定するなど、時代の要請を意識した取り組みがされている。

コロナ禍の中で必要な学習内容・学習方法を随時検討している。チーム医療を推進している貴校の独自性が盛り込まれている

シラバスは具体的な授業内容が記載されている。各教員で実施結果や学生の反応を踏まえ授業の見直しを行っている。

新型コロナの影響により、時間割が変更となった場合も、状況に合わせて再作成し周知できていた。次々年度からは、電子シラバスが導入予定とのことで、簡便になると思われる。

学生の自己分析結果を参考に面談等通して指導の場を設けている。

コロナ禍で登校する機会が減り、成績不良者に対して定期的な学習会の開催が難しい側面があり、定期的な学習支援については、今後の課題であると考えられる。

コロナ感染予防対策として、3密を避けるために、実習病棟への実習日数・学生数の調整が行われ感染予防対策を優先に実習環境が整備されていた。

コロナ禍で可能な範囲で実習病棟が確保されていた。途中で中断する状況もあったが、概ね実習ができている。

学習する環境は整備され、指導者・教員ともに連絡調整を行っている。実習日数が減少したことに伴い、指導者と連携をとり、互いに協力し合って行った。指導者会は、オンライン上で開催したが、対面での開催時に比べ、十分に意見交換ができなかったようで、今後は、実施方法などを検討されたい。

各領域の教員間で試験内容等確認している。実習不合格者が出そうなときは、領域で情報を共有し適切な対応を行っている。

医療安全教育や実習前の指導を行っている。インシデントレポートは保管されているが、内容の共有が不十分な点があり学生指導に活かせる体制を整備されたい。

学生による授業評価、自己評価、授業参観による他者評価の結果をもとに、授業内容の改善に役立っている。

授業内容は具体的にシラバスに記載されているが、シラバス作成FDを行い、シラバス作成基準を設けると教育の質が担保されるのではないかと考える。

学校関係者評価委員等に授業を公開する機会があってもよい。

教育方法及び学習指導について、多様な学生への対応は教員の個人の力によるところが大きく、学校として教育力を向上させるために組織的に取り組むことが課題と考える。

2022年度の看護師養成所のカリキュラム改正に向け、貴校の教育課程編成の検討を行うとともに、多様な学生へ学校として対応するため、学会や研修会へ計画的に参加し、報告会等で新たな教育手法、学生指導方法を模索、検討されたい。

国家試験の合格率・就職率ともに良好であることから、貴校の教育水準は一定の水準に達していると考えられる。

3 入学・卒業対策

昨年度に引き続き多くの入学者を確保する為に前年度の結果を分析し、志願者の確保に努めているが令和2年度の入学生は入学定員（150名）に対して入学者が142名であったが、令和3年度入学者は150名であり改善されている。また、質の高い卒業生を輩出する為に、低学年から学年・クラス担当で個別指導を行い、随時保護者とも面談する学習支援体制が整っており、国試合格率は卒業生も含め100%と常に高い水準を維持している。更に看護師を目指して入学してきた学生を卒業まで導くために学習意欲が低下している学生、家庭環境や経済的な問題を抱えた学生等、様々な状況に応じた学生支援ができる運営体制を強化して欲しい。例年大学病院への就職率は高いため、今後は更に卒業生同士の絆が深められるような企画を立案し、卒業後の支援体制を強化して欲しい。

4 学生生活への支援

学生が修学を継続するために進学・就職に関しては、業者による説明・指導やキャリア支援室による就職ガイダンスを行い、先輩との就職懇談会も実施し情報提供ができています。奨学金制度もあり、学生相談室・保健管理センターも設置され、学生生活への支援体制が整っている。

しかし残念ながらコロナ禍の影響によりクラブ活動は中止となったが引き続き大学のクラブ活動へ参加できる体制は整っている。

5 管理運営・財政

事務課から予算計画や事業計画等について説明がなされ、教職員に周知されている。昨年度と継続し予算計画、年間事業計画を策定し、教員の組織に分野・委員会を設置し、在庫・予算管理を行っている。今後は更に予算決算管理及び昨年度対比による分析等の取り組みをされたい。

なお、引き続き学生や教職員等の人権・個人情報の保護については、徹底した取り組

みがなされており、学校運営に学生の意見が反映されている。

災害等が発生した場合の危機管理マニュアルが不十分であるため、早急に見直す必要がある。

6 施設・設備

施設・設備については予算措置を図り毎年見直し整備されている。

施設・設備の安心、安全は、確保されている。教育目標達成に必要な施設設備・教材は整っているが、実習室が狭く、学生が自主的に学習できる場が不足している為、確保する必要がある。図書室は専任の司書がいて、十分活用できている。

感染対策における実習や講義の変更に対応できるようにICTを活用できる教育環境を整備していく。

防災については、被災事態を想定し備蓄品の充実や機械、器具等を準備する等、早急に検討する必要がある。また、防犯に関するビデオカメラの設置等を検討する。

7 教職員の育成

新カリキュラムに関するオンライン研修を実施し教員全員が参加している。

他校とオンラインで授業や実習の取り組みについて情報交換を行い教員に情報を提供している。教員が研修・学会に参加している状況が見えにくく、学会参加後の成果の講習会等の機会も設けられていないので次年度は実施できるよう計画的に取り組んで欲しい。また、教員が計画的に臨床看護研修に参加できるような体制が整っていないので整備する必要がある。

教員が授業資料の作成や日々の授業に追われ研究活動を行う時間が確保されていないため研究活動を行えるような工夫や体制を整備する必要がある。

全教員が授業を公開し、授業後の評価会を行っているので今後も継続し実施していただきたい。専門領域認定が受けられるよう大学病院等と連携を更に深め引き続き支援体制を整備する。

「教職員の育成」は他の項目より極端に評価が低いいため、臨床看護研修を実現すると共に、教員の学会・研修報告の復活やラダー評価などの強化を最優先事項として対応して欲しい。

8 広報・地域活動

オープンキャンパスや学校説明会の開催案内、入学式、卒業式、戴帽式等の式典を適宜ホームページに掲載し活発に情報を発信している。

コロナ禍の影響によりボランティア活動や地域への活動ができなかったが、収束した状況で更に地域への広報・貢献・奉仕活動・連携として、近隣の小学校や大学の行事を通じて地域との連携を強化し今後も継続して欲しい。教職員が意識を高め地域になにが必要とされているのか、何ができるのかを考え学生が主体的にボランティア活動ができるような環境を整えるなどの学生支援を強化して欲しい。

以上